

育成モノづくり人材

Vol. 77

神奈川県立磯子工業高校

神奈川県立磯子工業高校は、1962年に開校し、京浜工業地帯の発展とともに、地域の産業の担い手を数多く輩出してきた。機械、電気、建設、化学の四つの学科から成る。化する。「高校生ものづく」の学科では物質の成分や構造を分析したり、バ017年の神奈川県大イオ化学やセラミックスなどの先端技術も学部で優勝した。16年べる。工業人の育成をも測量部門と旋盤部門



後藤校長

京浜地域産業の担い手に

【DATA】▷校長—後藤宗治氏
▷所在地—横浜市磯子区▷学科構成—機械科、電気科、建設科、化学科▷生徒数=667人▷主要設備=NC旋盤、マシニングセンター、CADシステム、FAシステム、プラント工場▷主な進路=関電工、JFEエンジニアリング、IHI横浜事業所、味の素ファインテクノ、いすゞ自動車、京急ファインテック、神奈川大学、神奈川工科大学など

グ部やライフル射撃部も全国大会に出場するなどスポーツも盛りだ。モノづくりを通してしっかり人材育成に取

理念に掲げ、部活動やで県大会優勝の実績をもつづくりコンテスト、地域貢献活動にも力を入れる。モノづくりに関する大会には毎年積極的に参加し、大会を通じて人材育成に励んでい

ロケットを開発する設り組んでいるため、後藤校長は「磯子工」のほかに、技術研究部や建築研究部の生徒を採用すれば、高の生徒を採用すれば、まちはないとい企業から、研究も言ってもらえる。同好会などがある。研究に取組みながら、と、インソウプランに「ド」に胸を張る。地元の町内会や小中

学校と連携し、授業の専門性を生かした地域貢献活動にも熱心だ。高年齢施設で植木の伐採や工具のメンテナンス、個人宅の包丁研ぎや電球交換も行う。携では、ものづくりマ



旋盤の実習に取り組む2年生

されて、生徒への技術指導を行っている。後藤校長は、指導力の高い教員が育たなければレベルの高い生徒は育たないとい、教員の技術力向上に向けた指導にも力を入れる。生徒だけでなく職員にも資格取得に向けた指導を行う。「やってみせる技術力、言って聞かせてやらせる指導力、ほめる観察力の三つが必要だ。そうしなければ生徒を育てることはできない」(後藤校長)と力を込める。(高島里沙)

イスターが学校に派遣 (金曜日掲載)